

2025年12月発行

For High School Students

下京図書館だより

皆の衆、ご機嫌麗しゅう。

この度、皆に江戸の世に関する書物を読んでもらいたく、斯様（かよう）に集めてみた。もし読了いただけたならば、これに勝る喜びはござらぬ！



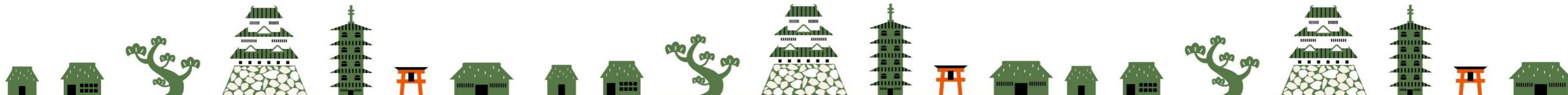
江戸時代の一日
がわかる！



『江戸でバイトやってみた。寛政期編』

櫻庭 由紀子／著 くろしま あきら／絵 技術評論社

令和の大学生七緒と幼馴染の直之が、寛政期の江戸の街にタイムスリップ。鳶屋重三郎が影響を与えた江戸大衆エンタメ業界を中心に、江戸の文化や日常生活を紹介します。目にしたことはあるが…と思っているような「絵」や「書籍」がふんだんに登場するので、楽しみながら学べます。ラノベと図鑑が融合する新感覚の時代劇です！



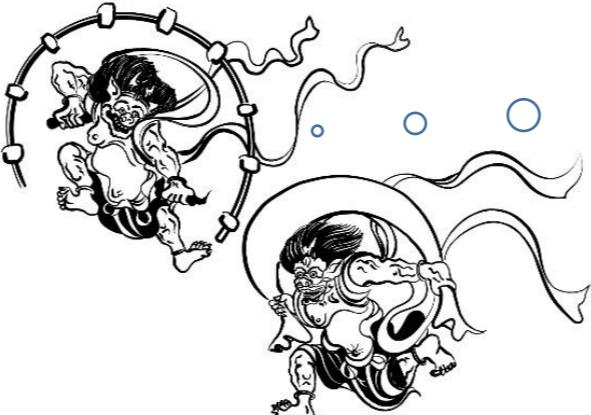
『作家別 あの名画に会える美術館ガイド 江戸絵画篇』

金子 信久／著 講談社

江戸時代は政治の中心が京都から江戸に移ったこともあり、新しいものが次々と生まれ、美術の民衆化をなしつけた時でもありました。その江戸時代に日本各地で活躍した画家 120 人を取り上げ、作家名から、その作家の作品を所蔵する美術館を探せる美術館ガイドです。

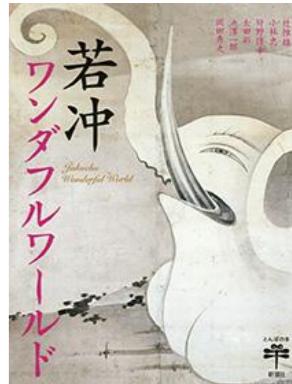


琳派・狩野派、
両方見物しねえと、気が
済まねえってえもんだね。



ほおう。錦小路
にいたのか！

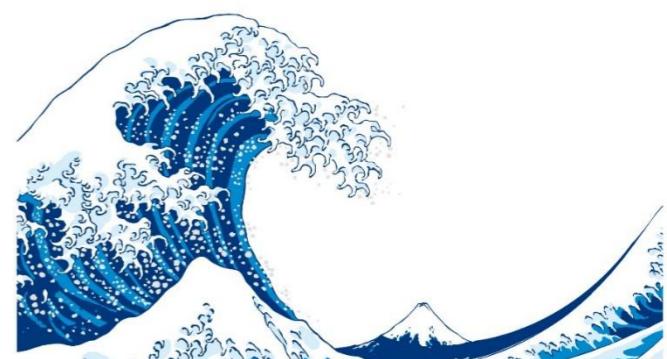
気分転換に、たまには
美術館も行ってみてえな！



『若冲ワンダフルワールド』

辻 惟雄／著 小林 忠／著 狩野 博幸／著 太田 彩／著
池澤 一郎／著 岡田 秀之／著 新潮社

伊藤若冲は江戸時代に活躍した日本の画家で、京都・錦小路にあった青物問屋「枡屋」の長男として生まれました。錦市場の西の入り口あたりに、生家跡を示すモニュメントがあります。機会があれば一度みてください！そんな伊藤若冲の動植物絵(どうしょくさいえ)全30幅から、初公開の水墨画、版画の名品までを一挙紹介した珠玉の一冊。



てやんでもえ、な、なんだ？べらぼうに面白れえ！

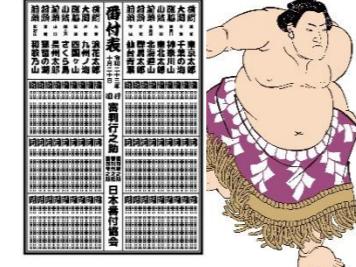


芸術



『大江戸番付づくし』

石川 英輔／著 実業之日本社



「番付表」ってご存知でしょうか？そう、相撲で「東西」に分けられ、力士の順位をあらわした表です。この表は江戸期から使われたものですが、この体裁を利用して、江戸時代のあらゆるもの、衣食住や商売、名所などをランキングしたのが、この本におさめられています。当時とっても流行ったみたいですよ。ある意味、格付けがわかる「江戸時代ガイド」ともいえるかも。

『都のべからず物語』

三浦 隆夫／文 藤原 みつい／絵 京都新聞社

江戸初期から維新にかけて京都所司代や町奉行が出した御触れ(主に役所から一般の人々へ広く告げ知らせるための命令や通達)155編を収録。町民に深く関わる町触、公共事業の入札やニセ薬の販売、鴨川の大花火などが紹介されています。



『図説 江戸のエンタメ 小説本の世界』

深光 富士男／著 河出書房新社

江戸時代中期以降の大衆小説は、「文+挿絵」のセットが基本だったそう！「読本」、「黄表紙(挿絵入りの大人向けの絵物語)」、「合巻」、「人情本」のそれぞれの特徴がわかりやすく解説されていて、時代小説を読む際にとても役立ちます。曲亭馬琴、恋川春町、為永春水、山東京伝など有名な作家の作品が紹介されているのも注目！



『江戸のスポーツ歴史事典』

谷釜 尋徳／著 柏書房

江戸時代の人々はスポーツ好きだったそう。「全身を使う」「用具を使う」「力と技と頭を使う」の三部に分かれ、それぞれの項目には多数の絵画史料が掲載され、文章とともに当時のスポーツの様子に想像が膨らむ一冊。



絵画史料も
多数掲載され
見やすい!!

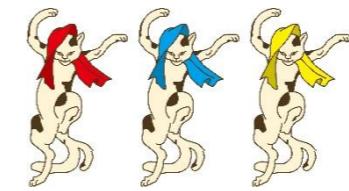
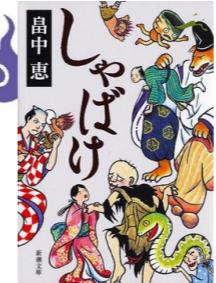
○
○
○



『しやばけ』

畠中 恵／著 新潮社

たくさんの妖怪に囮まれて暮らしている主人公・一太郎。一太郎はある日、江戸の町で殺人現場を目撃してしまいます。その殺人事件を妖怪たちとともに解決するお話。シリーズものとして人気の「しやばけ」の第1作目。最新刊は2025年発売の第24弾「あやかしたち」。

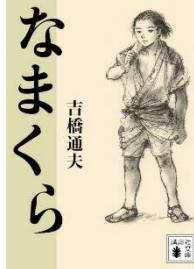


子どもの本コンシェルジュの
おすすめ！



『なまくら』

吉橋 通夫／著 講談社



幕末・維新の京都を舞台に、貧しく、厳しい境遇の無名の少年たち7人が必死で生きる姿を描いた短編集。読んでいて、心がえぐられるような辛さもあるのに、希望を感じる名作です。

『星に惹かれた男たち』

鳴海 風／著 日本評論社

日本人初の太陰太陽暦を作った渋川春海や天体測量を併用して高精度な日本地図を作った伊能忠敬など江戸時代に天文学にのめりこんだ人たちを紹介。江戸時代の天文暦学に興味のある方々にはオススメです。



『江戸のひみつ』

江戸歴史研究会／著 メイツ出版

江戸の町は人口が100万人を超える世界一の大都市で、寺子屋が1500校あり、識字率は世界最高レベルに達していました。そこに住む江戸っ子たちは好奇心旺盛で、知恵と工夫で快適な暮らしを送っていたのです。この本は図解と資料が豊富で、当時からあるお花見や花火、旅など今も残る活発な江戸時代の人々の様子が見えてきます。章ごとに確認クイズも載っていて知識の定着がわかって面白く読み進められます。



『江戸の衣装と暮らし解剖図鑑』

菊地 ひと美／著 エクスナレッジ



江戸時代は身分や職業が衣服や髪型でわかる社会でした。この本では武家や町人などの男女の衣装について書かれています。なかでも自由業のスターであった歌舞伎役者は、流行の発信源だったとか…。イラストで解説されているので、当時の暮らしと仕事がよくわかる一冊です。

『イラストでわかるお江戸ファッション図鑑』

撫子 凜／著 マール社



町娘・若衆・武家・姫君・役者・芸者・遊女などの髪型や服装が現代イラストで描かれています。コラムには履物や化粧道具なども載っています。この本は実用的なイラスト集で、元にした浮世絵の絵師とタイトルも記載されていて比較して楽しむことができます。



下京図書館

〈住所〉

〒600-8449 京都市下京区新町通松原下る富永町 110-1
下京修徳ふれあい福祉会館4階
(最寄駅：地下鉄「五条」市バス「五条西洞院」)

〈開館時間〉

平日：午前9時30分～午後7時
土・日曜日・祝日：午前9時30分～午後5時

〈休館日〉

火曜日（火曜が祝日の場合は翌平日）・年末年始

貸出中の本もあります。予約できますので、
詳しくはカウンターの職員に聞いてくださいね！